

## 2021年3月期第3四半期 決算電話会議 質疑応答要旨

日時：2021年2月5日（金） 10：00～10：40

お断り：この要旨は、決算電話会議にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、電話会議でお話ししたことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

Q 国内薬品事業において、顧客の稼働は第2四半期から第3四半期にかけて改善してきているか。また、業種による差はあるか。

A. 改善してきていると見ている。業種別には、自動車は改善しているが、石油関連はまだ厳しい。

Q. 顧客の改善傾向は、第4四半期や来期に向けて継続性はあると見ているか。

A. 一部不透明ではあるものの、来期に向けては回復を期待している。

Q. メンテナンスの受注環境について、第2四半期以降、第3四半期、第4四半期と改善傾向は見られるか。特に海外の電子産業向けについては、顧客の稼働状況からすればもっと増えてもいいように思うが、どう考えればいいのか。

A. 国内については、第2四半期から第3四半期にかけて大きな変化はない。海外については、今後も需要が積み上がっていく性質のものなので、四半期の動きで一喜一憂しなくてもいいと思っている。

Q. 第3四半期の事業利益の増減要因について、薬品事業の原価率改善効果はどの程度出ているのか。また、販管費の減少要因の内訳と今後の見通しを教えてください。

A. 新規連結影響を除くと、薬品事業は6億円の原価率改善効果があったと見ている。販管費の減少要因の内訳は、新型コロナウイルスによる移動制限等の影響と、経費削減努力によるものとの区別が難しい。今後新型コロナウイルスの影響が弱まっても、リモートワーク推進による経費削減効果が期待できる。

Q. 中国における薬品事業売上高の第4四半期の見通しは第3四半期実績より少ないが、その要因は。

A. 春節などの季節性によるものと、為替影響による目減りを想定している。

Q. 薬品事業の収益性が前々期、前期に比べると改善しているが、原価改善や経費削減の取り組みについて具体的な事例を紹介いただきたい。また、その効果は今後も継続するか。

A. グローバル調達による薬品の原材料の調達コスト低減や、リモートワーク推進による経費削減の取り組みが挙げられる。今後も改善効果は継続すると考えている。

- Q. 持分法の投資損失が 10 億円計上されているが、これはどのような要因によるものか。また、それは一過性の要因か。
- A. 節水ソリューションを手掛けるベンチャー企業のアパナ社が、新型コロナウイルス感染拡大の影響で流通業顧客向けの新規開拓が困難になり、将来の事業計画を見直した結果、減損損失を計上したことによるもので、一過性の要因である。
- Q. アパナ社同様ベンチャー企業であるフラクタ社の状況はどうか。
- A. フラクタ社は、AI 技術で当社の DX（デジタルトランスフォーメーション）推進に貢献しており、現時点で減損は考えていない。
- Q. 中国経済は回復傾向にある説明があった。今後中国に薬品の生産拠点設立を予定していると思うが、中国の事業拡大は期待できるか。
- A. 中国は電子産業を中心に活況であり、薬品事業・装置事業ともに今後成長が期待できる。
- Q. 今期統合したクリタ・アメリカ社の生産拠点や物流拠点の統廃合の進捗はどうか。
- A. 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、進捗は遅れ気味である。
- Q. 北米の電子産業向け事業の展望を教えてください。
- A. 電子産業市場においては、今期に新規連結したペンタゴン・テクノロジーズ社の精密洗浄事業が伸長していくと考えている。
- Q. 新開発拠点への投資が計画より前倒しになった要因は。
- A. 工事が想定より早く進んでいるためである。
- Q. 海外装置の受注高の進捗が良くないが、その要因は。
- A. 北米における装置需要低迷から受注の進捗が悪い。一方、中国・韓国では需要があり受注は計画線での進捗となっている。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。